



Japan Society of Internship  
and Work Integrated Learning

# 日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

## 2013年度 NO.2

### 目次

- ・ 第15回大会準備報告
- ・ 理事会報告
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究WG報告
- ・ 楨本記念賞WG報告
- ・ 支部活動報告  
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 2014年度高良記念研究助成募集について
- ・ 事務局からのお知らせ

### 第15回大会準備報告

地域協働・産学連携教育のかたち@北九州市立大学

2014年9月6日(土)・7日(日)の2日間、日本インターンシップ学会第15回大会を北九州市立大学で開催いたします。

今大会のテーマは「地域協働・産学連携教育のかたち」です。企業等における1~2週間程度の就業体験にとどまらず、産学連携教育、ボランティア活動によるService Learning、課題解決型

Project-Based Learningなど、広義のインターンシップがWork Integrated Learning/WIL(職業統合的学習)と捉えられるようになって参りました。様々なWILの実践事例発表やシンポジウム、研究発表を通じ、新しい「インターンシップ」のかたち、在り方を考える機会になれば幸いです。

今回の大会はいつもと一味違うプログラムを組み込みました。一日目午前由高良記念研究助成発表を行った後、午後からは学生たちによる様々なWILの実践活動の成果発表を計画しています。企業レポート活動、地域コミュニティとの協働における地域課題解決活動など、学生の体験談は成果や課題をよりリアルに感じることができると期待しています。実践発表に続いては、それらの実践活動をサポートしている教員や受入れ企業の方に登壇いただき、コメンテーターを交えてパネルディスカッションを行います。そして、二日目午前を自由研究発表といたしました。会員の皆様にはふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、研究発表の申込み、大会参加申込み等詳細は大会ウェブサイトから願います。

【第15回大会WEBサイト】<http://jsi2014.org>

また、お楽しみ企画としてエクスカッションツアーを計画しています。一日目懇親会終了後は、北九州の文化「角打ち」を体験いただきます。二日目午後からは歴史ある「小倉」を体感していただける「まちあるき」を学生たちがご案内させていただきます。準備ができ次第大会ウェブサイトに掲載させ

ていただきます。人数に限りがありますので、お早目にお申込みください。

それでは、大会実行委員をあげて皆様のお越しを心よりお待ちしております。

(第15回大会実行委員長 眞鍋 和博・北九州市立大学)

### 理事会報告

2013年度第3回理事会(11/16@九州大学箱崎キャンパス)

#### (1)入退会申請について

入会7件、退会2件が承認された。なお、入会申請のうち個人会員1件については審査要件上の不備があったため次回の審査に持ち越しとなった。

#### (2)役員、各委員会・ワーキンググループの構成について

吉本会長より役員について顧問も含む全員が決定したこと、ならびに各委員会・ワーキンググループの構成について説明があり、承認された。

#### (3)第15回大会について

眞鍋第15回大会実行委員長より現段階の準備状況について報告があった。開催日程を2014年9月6日(土)・7日(日)とすることで決定した。

#### (4)組織運営にかかる規則等の見直しについて

吉本会長より、組織運営にかかる規則等の見直しを現体制の理事会で引き続き審議するにあたり、経過説明があった。協議の結果、役員を選任、役員の任期制適用、支部規程等、現体制の理事会でも引き続き規則等の見直しを検討していくことを確認した。

#### (5)広報委員会報告

石田委員長より、学会の新シンボルマークの決定とその使用について、ニュースレターの編集・発行作業の進捗状況について、それぞれ報告があった。シンボルマークの使用については広報委員会の版権管理下とすることを理事会決定の申し合わせとした。

#### (6)企画研究WG報告

亀野委員長より、①実践を研究に結び付けるためのセミナー実施、②2015年のWACE世界大会を念

頭に国際化対応、の二つを今後の活動の柱とすることについて報告があった。

#### (7)事務局報告

事務局長より、事務局が交代したことに伴い学会HPの記載を変更したこと、事務局のメールアドレスを変更（jsi-sec@js-internship.jp）したこと、事務局長補佐（土肥眞琴会員）をおいたことについて報告があった。

#### (8)各委員会・ワーキンググループ報告、各支部報告

各委員長、支部長等より説明があった。

### 2013年度第4回理事会（3/15@玉川大学）

#### (1)入退会申請について

入退会の申請者について、入会6件、退会1件がすべて承認された。

#### (2)高良記念研究助成について

眞鍋2013年度委員長より、2014年度の委員会体制として、メンバーの交代と新委員長の選出について報告があった。資料に基づき説明があり、応募の締切については昨年の実績を勘案して6月13日とすることで決定した。

#### (3)会則等の見直しについて

吉本会長より、会則等の見直しのうち、旧組織運営WGでも論点となっていた役員任期と再任規程の適用については今年の総会に諮りたい旨の説明があり、今後、6月と8月の理事会を通じて改定案を検討していくことを確認した。

#### (4)第15回全国大会について

眞鍋第15回大会実行委員長より大会開催準備の進捗状況について報告があった。

#### (5)年報編集委員会報告

安孫子前副委員長より、年報第16号発行までに要した査読・編集作業の状況について、亀野現副委員長より第17号の投稿状況（8本）と今後の査読・編集スケジュールについて、それぞれ報告があった。

#### (6)企画研究WG報告

亀野委員長より、本理事会の前にWGを行い、学術研究を高めていくためのワークショップ等の実施、2015年のWACE世界大会を念頭に国際化対応、の二つを行っていくことについて確認した旨の報告があった。また、安孫子副委員長ならびに松高理事より、2015年のWACE世界大会と2014年8月30日のプレ大会について開催概要等の説明があり、これをもとに意見交換を行った結果、本学会の当面の関わり方として、学会本部としてのプレ大会への後援と関西支部としての研究会のプレ大会内開催を行うことを確認した。

#### (7)槇本記念賞WG

田中委員長より、「秀逸なインターンシップ」について来年に成果を発表することを念頭に、該当すると思われる事例について情報提供を募ることとする旨、報告があった。

#### (8)各委員会・ワーキンググループ報告、各支部報告

各委員長、支部長等より説明があった（詳細は本

NEWS LETTERの記事を参照願います）。

#### (9)事務局報告

事務局長より、資料に基づき説明があり、学会オリジナル封筒の作成数と仕様について伺いがあり、了承された。

（事務局）

### **年報編集委員会報告**

年報編集委員会では、編集委員、査読をお願いした会員諸氏、第14回大会実行委員会の協力を得て、現在、年報第17号の編集作業を進めております。研究論文の部へは、7編の意欲的な投稿が寄せられました。第16号から投稿を受け付けております資料の部へも、投稿が寄せられております。

年々、深刻な投稿規定違反は減少しており、質も徐々に上がってきている印象があります。編集委員会では、昨年度に引き続き、査読充実など質向上へ取り組んでいるところです。更に今年度から、企画研究ワーキンググループによる『日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策』への協力を通して、論文の質向上に向けた活動を各地で展開することになりました。日程・内容等詳細につきましては、決定次第、ニュースレターもしくは学会ウェブサイト上にてご案内があるかと存じますが、ご関心をお持ちの会員のみなさまにおかれましては、是非お気に止めていただき、奮ってご参加いただければと存じます。

（年報編集委員会委員長 稲永 由紀）

### **広報委員会報告**

#### メルマガ配信ならびにアドレス登録について

インターンシップに関するイベント、研究会や公募情報など学会ウェブサイト掲載だけでなく、会員への情報提供としてメルマガ配信を行っております。会員への情報提供を希望される場合は、広報委員会にご連絡ください。

また、お手元にメルマガが届いていない場合、メルマガ配信先アドレスに変更が招いた場合は送信先アドレスを記載の上、広報委員会

（jsi.prc@gmail.com）宛にご連絡ください。

（広報委員会委員長 石田 宏之）

### **企画研究WG報告**

本WGの大きな任務は、①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策の検討、②本学会の国際的な対応の2点です。

前者は、2012年12月に年報編集委員会と共催により東京で実施したセミナー『日々の実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて』のような試みを他の地域でも実施していこうというものです。詳細が決定しましたら学会ウェブサイト等でご連絡いたします。

後者は、インターンシップや WIL (Work Integrated Learning : 職業統合的学習) の国際的組織である WACE (the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education) の第 19 回世界大会が 2015 年 8 月 19~21 日に京都産業大学で開催される予定です。本学会としても何らかの協力を行い、今後の本学会としての国際化に対応していこうと考えています。

なお、京都産業大学では、上記大会の広報のため、本年 8 月 30 日 (土) にプレ大会を開催予定です。関西支部の定例の研究会も、プレ大会の中での 1 セッションとして開催します。本学会としても、同大会・プレ大会の後援や開催案内の周知に努めてまいりたいと考えています。詳細が決定しましたら学会ウェブサイト等でご連絡いたします。

(企画研究 WG 委員長 亀野 淳)

## 楨本記念賞 WG 報告

### 楨本記念賞に相応しい成果事例 募集

2014 年 3 月 15 日、楨本記念賞 WG の打合せ会を開催しました。これまで寄せられた候補事例をもとに、「秀逸なる基準」について検討を行い、第 15 回大会 (平成 26 年度) で中間報告を、第 16 回大会 (平成 27 年度) に成果を発表する方向で進める方針となりました。

なお、「秀逸なる基準」については、以下の視点での類型化を検討しております。

#### 1. 効果の視点

① 学生の成長と教育プログラム、② 醸成された能力は汎用的能力か、専門的能力か、③ キャリア形成は短期的な気づきか、生涯に亘るキャリア形成かなど

#### 2. 教育プログラムの視点

① 個人か集団 (グループ) か、② 短期か、長期か、③ 実施は大学か、企業ないし NPO など支援団体か、④ 海外か国内かなど

会員諸氏におかれましては、各支部の委員ないし事務局宛に推薦事例をご連絡願います。

(楨本記念賞 WG 委員長 田中 宣秀)

## 支部活動報告

### 北海道支部

#### 北海道支部 2013 年度総会・第 1 回研究会を開催

2014 年 3 月 25 日 (火) に 2013 年度の北海道支部総会、研究会を札幌国際大学経済センターキャンパスにて開催いたしました。年度末の開催となりましたが、10 名の会員の参加がありました。

支部総会では、2012 年度の活動報告および決算、2013 年度の活動方針および予算が承認されました。また次期運営役員の改選が提案され、亀野支部長、椿・和田副支部長の留任をはじめ、運営委員、監事、顧問の新役員が選出されました。任期は 2014 年 7 月~2016 年 6 月です。

北海道支部の立ち上げから 4 年弱が経過しようとしておりますが、地域・自治体などに学会外部に向けた活動や新規会員の獲得などについては、模索が続いております。今後は外部機関に向けても積極的な活動を目指すことを確認いたしました。

総会後に開催した研究会では、特にテーマを設けず、支部会員の現在関与する研究活動や教育活動などをご紹介いただき、ディスカッションにより意見を募るスタイルで進行いたしました。「研究発表」とまで完成されていない準備段階の内容や、インターンシップとは違った視点からの職業関連教育の話題などが持ち寄られ、自由な雰囲気での討論が交わされました。このスタイルは支部会員からも好評で、今後の研究会でも実施を検討して参りたいと考えております。

#### 北海道支部 2013 年度 第 2 回研究会を開催予定

2014 年 6 月 8 日 (日)、北海道武蔵女子短期大学におきまして、支部第 2 回研究会を開催する予定です。

先述の通り、北海道支部では積極的に外部の団体との研究交流、連携活動を進めたいと考えております。そこで本研究会では平成 26 年度から実施される文部科学省補助事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 (テーマ B)」において、北海道地域幹事校として取り組んでいる小樽商科大学の津晶准教授と連携し、地域におけるインターンシップを通じた人材育成、学会と同事業の連携方策などについて議論する予定です。

今後のインターンシップのあり方、また教育機関と地域との連携の在り方について、議論が進められるかと考えております。みなさまのご参加をお待ちしております。

(北海道支部事務局・広報委員 小林 純)

### 関東支部

関東支部では 2012 年度 3 回の研究会を開催いたしました。2013 年 8 月 10 日 (土) に役員会・総会が開催され、折戸晴雄新支部長が選出され、3 期目がスタートいたしました。

2013 年度の活動方針については、第 3 期の目標テーマを『長期インターンシップ導入に向けての検討』とし、研究活動を通じて得られた成果を関係企業や団体・機関に知ってもらうことを第一義といたし、年 3 回の研究会の開催と支部会員による研究発表を行います。また、新たに関東支部会員の研究活動支援を目的に、情報共有を図るため、活動に賛同をいただける方の支部登録制を導入、会員へ研究会案内、ニュースレター、各種案内をいたしてまいります。

2013 年度の活動では、第 1 回 (2013 年 12 月 7 日) 研究会は目白大学 (新宿キャンパス) にて開催、基調講演は奥 浩昭氏 (電気通信大学准教授・IAESTE JAPAN 事務局長代行) より『「出会う」ということ—IAESTE 海外インターンシップ研修—』

をテーマに講話をいただきました。研究発表では、5大学（文教大学、目白大学、玉川大学、嘉悦大学、山梨学院大学）7名の学生より「夏期休暇を利用したインターンシップ」の成果発表がなされました。

第2回（3月15日）研究会は玉川大学にて開催、基調講演は末吉孝弘氏（渋谷エクセルホテル東急・総支配人）より「長期インターンシップの受入れの背景と展望」をテーマに講話をいただきました。また、研究発表では島田薫会員（聖徳大学）より「必修6か月のインターンシップ15年間の結果と展望」を、薬師丸正二郎会員（立教学院短期大学）・田中宣秀会員（電気通信大学）からは「国も試行した長期インターンシップ—文部科学省の事例を中心に—」、そして山口圭介会員（玉川大学）には「教育分野における就業体験の現状と課題」をテーマにそれぞれ研究発表がありました。

第3回は2014年6月28日中央大学駿河台記念館にて、臼井啓能氏（東京経営者協会 労働・研修担当部長）より「若年雇用を取り巻く現状と課題」について講演をいただきます。

（関東支部事務局・広報担当 山口 圭介）

## 関西支部

### 関西支部運営委員会での決定事項

関西支部では、2014年2月21日（金）に支部運営委員会を開催しました。まず、支部運営委員会の人事についての検討が行われ、副支部長1人の交代（長尾副支部長が運営委員に、土肥運営委員が副支部長に就任。他の副支部長2人は留任）と田崎悦子会員の支部運営員就任が了承され、4月から新体制で運営しております。

次に、京都産業大学で2015年8月19日（水）～21日（金）に開催されるWACE（World Association for Co-operative & Work-Integrated Education）の第19回世界大会への関西支部の支援のあり方について議論がなされました。松高副支部長（京都産業大学）から準備状況について、「国内でのWACEの知名度を上げるために2014年8月30日（土）に、京都産業大学が“むすびわざ館”（JR京都駅に近い壬生校地）でプレ大会を開催します」との報告がありました。例年、8月下旬に開催している関西支部研究会をこのプレ大会に合流させる方向で議論が纏まり、3月の本部理事会の了承を経て、支部研究会をプレ大会の1セッションとして同日に開催することとなりました。支部研究会の報告者としては、少なくとも廣瀬副支部長と田崎運営委員が内定しています（いずれも国立大学での取組）。詳細につきましては、決まり次第、学会ウェブサイトでお知らせいたします。例年とは異なり、プレ大会への参加費3000円（お弁当付き）が必要となりますが、多くの会員の皆様の支部研究会へのご参加をお待ちしています。

（関西支部支部長 安孫子 勇一）

## 九州支部

### 九州支部第12回研究会を開催

2014年5月10日（土）九州大学箱崎キャンパスにおいて、「高大接続の視点でみるインターンシップ」をテーマとした九州支部第12回研究会を開催しました。

今回の研究会では、まず吉本圭一支部長から本テーマに対する問題提起がなされた後、野村徳之氏（ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室・アナリスト）より「インターンシップ活動の効果を高めるために求められる高大接続の観点」として、ベネッセの調査結果を用い、進学後の大学生の進路変更の意向は、不本意入学など入学大学の志望度が低いほど転学意向が高い（第3志望以下だと転学意向は63.0%になる）ことが示されました。また、進学先に不満はないが一定数の学生が転学意向（45.0%）、退学意向

（35.3%）がある現状があるものの、進学先の満足度が上がれば転学・退学を踏みとどまることが示されました。学生に対する進学先への満足度を高めるためには、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づいた学生に成長を実感させる教育プログラムが効果的であることが提言され、それらをインターンシップと教育プログラムとを有機的に結びつけた先端的な事例が紹介されました。

次に松高政会員（京都産業大学）より「京都産業大学におけるコープ教育の現状と課題」について大学の事例発表をいただきました。京都産業大学におけるキャリア形成支援教育の組織的な変遷からコープ教育プログラムの具体的な事例などが紹介されました。京都産業大学の特徴的な「オンオフ・キャンパス・フュージョン」プログラムが、現在は教員の負担を軽減し、継続的な運営へと発展的に展開した大学と社会とのサンドイッチ型教育プログラムについて、またインターンシップ科目の運営における外部講師と専任教員との役割分担などプログラムの開発者、実践者ならではの細かな具体事例が示されました。「Onキャンパス」の授業事例の紹介では、野村氏の講演で指摘された不本意入学者への定着に向けたプログラムの実践事例などインターンシップや初年次教育を担当する教員のFDにつながる内容が報告されました。興味深い報告内容に九州以外からの参加者も多く、質疑も活発に行われ、盛会のうちに研究会を終えることができました。

9月に北九州市立大学で開催される全国大会では、会員の皆様と学校種を超えた議論ができればと考えております。

（九州支部・広報委員 岡本 信弘）

### 2014年度高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会にご寄付いただいた基金をもとに、2007年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れ

た研究課題へ研究助成を行うものです。

この度、2014年度の研究助成の募集を行いますので、会員の皆様にはぜひご応募いただきますようお願いいたします。募集要項、申請書式等、申請に係る書類は本ニュースレターに同封しております。学会ウェブサイトでも入手可能です。

申込締切り後、採否を審査し、8月の理事会で決定し、研究助成対象者は大会の席上で発表する予定です。助成期間は1年、研究成果は次年度の大会にて発表いただき、さらに研究年報にて報告を行っていただきます。国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い研究についてのご応募をお待ちしております。

※申込締切：2014年6月30日(月)必着  
(高良記念研究助成審査委員会)

## 事務局からのお知らせ

### 会員情報変更の連絡について

4月以降に新天地で活動を開始された会員も多いことと存じます。同封の「会員情報調査票」の確認をお願いいたします。所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛お届けください。連絡先が不明になりますと、年報、ニュースレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

### 会費納入のお願い

本学会は2011年度より事業年度及び会計年度が7月から翌年6月までに変更になっております。ついては、2014年度会費については、7月に別途納入依頼をお送りさせていただきます。

なお、2013年度の会費未納の方は、郵便振替用紙か郵貯銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

### 会費納入先

#### 【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

#### 【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

#### 【銀行振込】

山陰合同銀行 湖山出張所 (普通)3742993

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガッカイ」と入力下さい。)

(事務局)

## 日本インターンシップ学会 News Letter 2013 No.2

平成26年5月20日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 長尾 博暢

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101

鳥取大学 大学教育支援機構 キャリアセンター内

E-mail [jsi-sec@js-internship.jp](mailto:jsi-sec@js-internship.jp)

電話 0857-31-5191 (事務局長直通) FAX 0857-31-5559 (キャリアセンター共通)

Website <http://www.js-internship.jp/>